

平成29年第3回（6月）出雲崎町議会定例会会議録

議事日程（第2号）

平成29年6月22日（木曜日）午前9時30分開議

第 1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（10名）

1番	小黒博泰	2番	中川正弘
3番	中野勝正	4番	高橋速円
5番	高桑佳子	6番	加藤修三
7番	三輪正	8番	安達一雄
9番	諸橋和史	10番	仙海直樹

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
副町長	山田正志
教育長	佐藤亨
会計管理者	佐藤佐由里
総務課長	河野照郎
町民課長	池田則男
保健福祉課長	権田孝夫
産業観光課長	大矢正人
建設課長	玉沖馨
教育課長	矢島則幸
町民課参事	山田栄
産業観光課参事	小崎一博
教育課参事	金泉嘉昭
教育課参事	権頭昇

○職務のため議場に参加した者の職氏名

事務局長	坂下浩平
書記	佐藤理絵

◎開議の宣告

○議長（仙海直樹） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

◎一般質問

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 高橋速円 議員

○議長（仙海直樹） 最初に、4番、高橋速円議員。

○4番（高橋速円） おはようございます。再びこの議場で発言の機会を得るということは、まことに感慨深いものがございます。ひとつよろしくお願ひいたします。

早速質問に入ります。通告書にございますが、「みんなで考える町おこし委員会」についてということで質問いたします。質問の要旨のところに触れてございますが、平成元年にみんなで考える町おこし委員会が始まりましたけれども、これで約30年近い歴史になるかということになるんですが、直近の状況を見ますと、次の世代を担う出雲崎の具体的に言うと40歳代以下でしょうか、その皆さんへの働きかけが足りていないのではないか。第5次総合計画なり、あるいはまち・ひと・しごと総合戦略といういろいろなものがありますけれども、どうもそこにその働きかけが足りていないように思うんですが、そのことについて私は過去のことを考えてみると、みんなで考える町おこし委員会が一番次の次代を担う世代の力を持ち上げる、地域の力を持ち上げる一番の具体的でかつ効果的なものではないのかなと。ただ、ひとつそこで昔のイベントの下請のような町おこし委員会ではなくて、もっと血と肉となる形をとりたいなということなんですが、一番わかりやすい名前がみんなで考える町おこし委員会ではないかということでこれを触れたんですが、私はそこで再度今日的な意味でアレンジをすることも、人材を育成するための町おこし委員会を立ち上げるべきではないかということでひとつ提案をしたいということで町長の認識を伺いたい、そう思うんですが、町長いかがですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 高橋議員さんのご質問にお答えいたしますが、今ご発言のようにみんなで考える町おこし委員会、これは私が町長に就任したときに設置したものであり、そして私のほうから命名をさせていただきましたが、町内各所から36人の委員を委嘱しましてご検討いただいたわけですが、そのときはおっしゃるような幅広く、年代も20代から70歳まで幅広く、しかも女性も9人お願いをしたというところがございます。当時は、今発言をされた高橋さん、議員ではありません

んが高橋さん、中川さん、そして諸橋さんも委員として参画をしていただきまして、いろいろ議論をいただきながら、その展望ビジョンを出していただきました。これは、本当に私はもう最高の価値があったと思っています。そういう皆さんの創意工夫、総力を結集したビジョンというものがはっきりとその後の町づくり、いろいろな場面で生かされて非常に有効でした。これは、私は大成功だったと思うわけでございますし、そういう中における今ご発言をいただいているわけでございますが、確かに時代も変わっておりますし、また変革も激しいわけでございますので、今ご発言の趣旨も十分理解しているところでございますが、発言の中にもございますように、もう既に皆さんもご承知のように、出雲崎町まち・ひと・しごと総合戦略、これも本当にそれぞれの立場で皆さんのご意見あるいは町全体、職員全体、各課を横断した幅広くご意見をお聞きしながらその一つの総合戦略を立ち上げたわけでございますが、3年目を迎えて着実にこれはその戦略に沿った効果というものは確実に出ておる。そういうことに対する成果に対して議会の皆さんのご理解をいただいて、補正も組んでおるといような非常にありがたい結果を生んでいるわけでございますが、これもやはり議会、町民各位の総力を結集したたまものと私は非常に感謝をしながら、またさらに鋭意進めてまいらなければならないというふうに思っておるわけでございます。

今のご発言のように、もう大変時代というのは刻々と変わってまいりますので、人口問題とか農業問題、いろいろな角度において変化あるわけでございますので、そのときの待遇の中で総力、最大公約、町民の最大公約数というのをしっかりと確立しながら政策に生かすと、これ大事だと私思うんです。そういう意味で、今進めておりますところの間もなくまた議会の議決をいただかなければならないわけでございますが、「子は宝」多世代交流館、これにつきましてもいろいろとご意見もございまして、子育て世代の保護者を中心とした検討ミーティング等も立ち上げまして、これからの施設には十分そういう皆さんのご意見が反映をされるというようなこともございます。そういうことの中で、今後とも今申し上げておりますように、非常に厳しい時代を迎えているわけでございますので、今高橋議員さんのご発言、ご提案もしっかりと受けとめながら、やはりそういう最も効果的な、単なる形じゃないですね、おっしゃるように、本当にその立ち上げたものがしっかりと住民の総意を盛り込んだものであり、しかもそういうものは的確に形となっていかなければならんというふうに考えております。そういう意味で、今とりあえず町総合戦略を立ち上げて、着実に実行しておりますので、その中におけるまたいろいろ変化出てくると思います。そういうときは、また今議員さんのおっしゃった発言等も、また議会の皆さん、町民の皆さんの総意をお聞きしながら、しっかりと対応していきたいというふうに思っているわけでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 実は、もうちょっと具体的に突っ込んで提案をいたします。

5次総合計画あるいはまち・ひと・しごと、これはまち・ひと・しごとのこの総合戦略が法に基

づいたものですから、このことはちょっと横に置きます。総合計画に関しての視点で申し上げますと、要は私言いたいのは、出雲崎で生まれて、あるいは出雲崎に何らかの事情で帰ってこられた、あるいは家を継いだ、その人が今の30年前なり20年前と違いますのは、生活にみんな汲々とせざるを得ない状況になってしまった。そうしますと、出雲崎にいながら出雲崎のことが知らないという方が大変多いんです。ある意味では、これは職員の皆さんもそうだと思うんです、正直言います。六十数名の職員の中で、私がざっと見た中で、約4割近い方が町外の方じゃないかと思うんですが、それが悪いと言っているんじゃないです。ただ、職員の皆さんもそうですが、とにかく出雲崎全般を知らない。小木ノ城の上から階段のところまでの全てを見てほしいなど、そういうことを知る機会が、学ぶ機会が今の現状ではないんじゃないか。当時の平成元年の委員長が丸山多喜男さんでした、亡くなった。あるいはその後が小林功吉さんが継いだりなんかしました。だけど、そういう過程の中で非常に熱い思いを持っていた人を私は2人、ちょっとあえてここでお名前を出しますが、丸山さんが当時は企画課がありました。企画の担当と文言整理で非常に悪戦苦闘してやっていた姿は、私はもう何回もその机一緒に横にいながらやっていたから、その思いはひしひしとわかるんです。あるいは亡くなった乙茂の金泉利彦さん、これは彼がいたらもっと出雲崎は変わったと。私は、だからそのいろいろな叱咤激励の中で、個人的にはいろいろな地域おこしに携わったつもりなんです、ただそのきっかけは結局町の町おこし委員会を立ち上げたときに、たしか何回かに分けましてマイクロバスで小木ノ城のてっぺんから「いろは」回ったり、それから良寛記念館行ったり、いろいろ町内の第1次産業、第2次産業、第3次産業、産業界も含めていろいろ見て回ったんです。当時そういう興味は、正直私は個人的にはなかったんです、正直言います。だけど、それを見てどうしてここがもうからないのかなとか、何でお客さん来ないのかなとか、素朴ないろいろな疑問を抱いたわけです。それがじわじわ、じわじわと地下水のほうに水が浸透していくように、地下に浸透していくようにいろいろ熱い思いを、出雲崎に対する熱い思いをだんだん、だんだん醸成してきたんじゃないかなというふうに思うんです。ですから、今私が心配するのは、この議場にもその当時の町おこし委員の今お名前おっしゃったように、その後天領まつり等々でも一生懸命頑張った皆さんがこの議場にも何人もおられるわけです。だけど、要は言いたいのは、その次がないんです、その次が。だからそうすると、この先の10年、20年後が危ないというふうに私には思えるんです。そういう意見に対しては、町長どう思いますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） おっしゃるとおりでございまして、これもこういう言葉で申し上げることはいかかと思うんですが、これも時代の変化でして、あの当時はまだ生活に余裕といたしましょうか、逆に所得は少なくとも生活がやりやすかった、そして大勢の皆さんが相集いながら、お互いにこの町をどうするのかという熱い熱い思いがあったんです。しかし、今は本当に時代が変わりました。選挙年齢も18歳に引き下げられたということで、政治に対する関心も若い人から持ってもらいたい

と思っておるんですが、さて選挙を行ってみますと、その投票率が非常に低いというような関係がございます。そういう時代の中で、いろいろ若い人たちも全く関心はないということはないんですが、この町に住んでいる以上、やはりいろいろ生活の環境面だとか、いろいろな面でお子さんを育てる方もあるし、あるいは勤めながらもいろいろの感覚を持っておられる方々、願いはあると思うんです。そういうものを今引き出しなさいということですので、これは私たちも真剣に考えていかなければならない、それだけに私はこれからそういう組織をつくる前に、まず私は積極的にそういう若い人たちの交流を通しながら、場合によっては今までの視点を変えまして、単なる組織なり委員会というんじゃなくて、フリーハンドでお互いに意見を聞いたり、あるいは意見を述べたり、また町の考え方も示しながら、ひとついろいろご意見を引き出しながら、それをひとつ政策の中に反映をする。そして、大きな一つの変換なり、いろいろな大きな時代変化の中においては、これはやはりおっしゃるような組織を立ち上げながら、時間をかけて、町民総意の間違いなく公約数を出すということは大事だと思うんです。そういう面で、おっしゃるようにこれから私たちも議会の皆さんにもお願いしたいんです。やっぱり地域に入られたらそういう若い人たちの接点を持ってもらって、いろいろと協議をしてもらおうということも大事だと思う。私は、出前議会というのがいろいろの町民からも出ている。そして、私は出席者が多い少ない、そういう価値観は私捨てるべきだと思うんです。関心を持って4人でも5人でも出ていただくというのが大事なんです。そういう機会をつくるというのが大事なんです。そういうものをさらにさらに輪を広げるとというのが私はこれからの議会の皆さんの立場なり、私も地方行政を預かる長として考えていかなければならん。そういう意味で、今高橋議員さんのおっしゃるようなご意見を尊重しながら、これからも皆さんから積極的にそういう機会の中にそういう設置あるいはこういうものが需要だというようなご提言をいただければ積極的に取り組んでいきたい。その前にまずやるべきことは、もういかに若い人たちから町のいろいろなことに関心を持ってもらえるような環境づくりというか、接点を持つべきじゃないかなと私は考えています。私もそういう意味で、これからまたこれを心を新たに組み立ててまいりたいと思いますので、よろしくひとつお願いします。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 意のあるところはわかりますが、ひとつせつかくですので、要望をちょっと申し上げておきたいと思うんですが、総合計画の中で地域づくりを行う団体を支援しますというふうに書いてあるんです。これははっきり言うと、上から目線のように私には見えるんです。これ実は、私も自分で、私は一応寺ということだったんで、その環境もあつたんですが、地域づくりというふうな概念がどういうことまで範疇になるか、これまたちょっと面倒になるんでしょうが、いろいろな私は個人的にというか、寺単位としまして、落語家も呼んだ、それから講釈師も呼んだ、講談も呼んだ、民謡大会もやった、それがだんだん、だんだんいって夕日コンサートになったんですが、けどこれは下手すると地域あるいは仲間の中からはいろいろなバッシングなり、いろいろな偏見を

持たれるんです。それをね返す体力が要るんです、体力が。これ下手すると、個人としてはないです。だからそうすると、上から目線で地域づくりを行う団体を支援しますじゃなくて、もうどんどん申し込んでこいというふうな形で、このやり方をちょっと修正していてもいいんじゃないかということが1つです。

もう一つ、せっかくですが、毎年のように役場職員の皆さんの能力、スキルアップという形で予算が計上されておりますが、それはPCなどの事務処理能力のスキルアップということの意味だと思うんですが、さっきもちょっと触れましたが、この出雲崎に関する学びの場を、時間をぜひとも持っていただきたい。あるいはまたその学びの場というのは、私海岸ですから、そうしますといつだったか避難訓練があった。これが月末なんだ。月末の避難訓練と言われますと、商いの皆さん方になると、月末支払いでというときになりますと非常に困っちゃうんです。だからこれは、やはり誰も他意はないと思うんですが、やはり出雲崎の全体のところをよくご存じないからこういうミスが出るんじゃないかと苦言が多分寄せられたんじゃないかと思います。ですから、そういう意味ではこの際役場の皆さん、職員の皆さんも一緒になってやはり全体何とかしようという情熱をもう一回ここで締め直していただいて、ぜひともいい形で今後この結果はもう数年なんか出ません。出ませんが、やっていていただきたい。それが必ずや目に見える形になるかと私は次の皆さんを期待しているわけです。

最後になります。3つ目はそういう中で特にまた女性の皆さんをちょっと優遇するという意味じゃなくて、大事な形で特に声をかけていただきたい。なかなか家庭から出にくい、あるいは子育てで大変だということですから、そこをやはり何とか出てきていただけませんかというふうな形で声をかけていただきたいということで、以上の提言をした中で最終的に先ほどの町長の認識等々を伺いますと、意のあるところはちゃんと酌んだと、来年から多分予算何とか具体的なもので動くというふうには私は受けとめましたんで、これで質問を終わりますけれども、どうかひとつ今後ともよろしく願いいたします。

質問終わります。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 貴重なご意見をいただいたわけでございますが、確かに町もそういうまず地域から活力を生み出すということで、地域づくり推進事業、これを立ち上げまして、非常に皆さんから好評をいただきまして、上限は15万ですが、事業費の2分の1、上限15万ということで非常に申し込み多いわけです。だからそういう意味では、積極的に私たちもこれからどんどんとお金じゃない地域のそういう意欲を引き立てたいということで進めてまいります。

さらに、この避難訓練等に対するご意見です。町がそういう立場を考えないでやるじゃないかというご意見です。私は、実はこう言っているんです。どんな雨の日であろうと、風の日であろうと、どういう日であろうとも避難というのは、避難訓練というのは災害はいついかなるときに襲ってく

るかわからない。そういうときにやる、そこにおいて参加してもらうことによって、本当に生きた避難訓練ができるんだと私は言っているんです。月末だから、雨が降ったから、風が吹いたらやめる、そうじゃない。そういうときにこそ真価を発揮する場面だと、しっかりやりなさいと私は指示します。さらに職員は、私の立場からあれですが、他から見ると出雲崎職員はしっかりやっているという評価いただいているんです。私も身内をかばうんじゃないですが、このまち・ひと・しごと総合戦略、これをつくっているときももううちの職員は全町横断をして、何回も検討会、スライド、そして自分たちがなぜこういうことを考えるのか、町民の皆さんの声を聞きながら、この事業はこうしてやっていきたいというものの成果品なんです。コンサルは入れなかった。絶対入れてはならない。これは成果があったんです。やはり職員も批判を受けることもあります。それは、皆さんからすれば言いたいこといっぱいあると思うが、私とすればうちの職員はしっかりやっている、そういう評価。例えば私は、この総合戦略立ち上げるにも、うちはよくやったと思うんです。それ確実に成果を上げている。そういう意味で、ご指摘はしっかりと受けとめまして、これからもさらに研さんを積み、職員はやっぱり町の公僕です。襟を正して、しっかりと町民に相對していかなきゃならない、それはしっかりと主張します。また、皆さんからもご指摘をいただきたいと思います。

さらに、女性問題ですが、やはりこれからの町づくりには、今高桑議員が1人孤軍奮闘していますが、できたらやっぱりもう少し女性の皆さんから参加をいただく。いろいろな組織もそうです。教育委員会もそうですし、農業委員会もそうです。今度そういうひとつの女性の参画というものが必要になってきているということで、法律的にもそういうものが義務づけられつつあるんです。そういう意味で、高橋議員さんのおっしゃるように、しっかりとそういう点を心にとめまして、ひとつこれからも皆さんのまたご指導をいただきながらやっていきたいと思いますので、よろしく願いします。

◇ 諸 橋 和 史 議 員

○議長（仙海直樹） 次に、9番、諸橋和史議員。

○9番（諸橋和史） おはようございます。5月に議会の改選がありまして、いろいろ町民の声ということで聞かせてはもらっていたんですけども、選挙期間が1日ということで、全ての面に私も私的な考え方で町民のほうに伝えようと一生懸命努力はしたんですけども、いかんせん1日ではちょっと伝え切れないいろいろな諸問題といいますか、町民から上がってきた声をお聞きして、ちょっと多く質問させてもらいますが、的確で端的な答弁ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

ただいま高橋議員とも関連するんですけども、町民からはやはり一番心配されているのは、第1問目の今後の合併についての考え方を聞かせてほしいという考え方が非常にあります。これは、一、二年の話じゃなくて、5年、10年というような先の見通しの中で物を町民の人は我々に聞いてくるものだと思っています。私も町民の方に答えるには、当面はしませんというものははっきり言って

いるんですけども、ただここに財政の問題なり人口の問題なり書き上げておるんですけども、なかなかそこまで見通す私の能力がないもんですから、ここに町長にちょっとお聞きしたいと思います。

現在の財政の観点から、次世代に継続していくものについて大丈夫なのかという、これ財政の問題です。現実的には、基金の積み立ても私が議員になったころで23億幾らありまして、28年ですか、19億ぐらいに減というふうになって、基金の積み立てがなかなか減っているものですから、現実そういう面で財政の観点からひとつご答弁願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 財政指数については、もう既に決算時期において監査委員から指摘を上げていただいているわけですが、まず完璧です。まず安全です。これは、30市町村、きのうも私は県の会議なりいろいろやっているんですが、もう胸を張って我が出雲崎町の財政は盤石だと申し上げている。財政力指数は下がっています。でも他の指標は、経常収支比率からあの基金残高から将来負担比率はゼロです。将来負担比率ゼロというのは、刈羽と出雲崎しかない。今借金を返していれば、返って逆にぐっとお釣りがいっぱい来るんです。だからこれは財政運営というのは、町民の皆さんに自信を持って答えてもらいたい。私たちも責任あるんです。ただ金をためれというんじゃないんです。災害起きたときにはどうするのか、緊急事態が起きたときにはどうするのか、特に重点的に財政を強くするにはどうするのか、そういうものに備えての盤石の体制を整えている。将来的にも私たちは、市においても今財政調整基金が何千万というところもあるんです。少なくとも今指摘をされている、我が町。財政調整基金を持ち過ぎるという指摘をされているんです。これは、もう総務省もそうですし、県からも指摘をされている。そういう意味の諸橋議員さんからも自信を持って町民に我が町の財政は安定しているんだと、間違いないということをしつかりと伝えてもらいたい。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 確かに今町長のおっしゃるとおり、今の財政の中では健全だと私個人は思っております。ゆえに、町民の心配しているのは、今後どうなるかなという話なんです。それで次に進むことになるんですけども、これもまた財政にひとつ関連はしてくる。町の人口、現実的には四千五百数十人というような形に減ってきております。私がこの前、60周年記念のとき、1万二千数百人という数値から見ると、もう3分の1、4分の1というふうな形に減に進んできております。また、出雲崎の先ほどの財政の面からいくと、4億数千万円の税収ということになるんですけども、今後町民が減ってくるということになりますと、どういうふう考えられるのか、それを直接聞きたいというのが町民が我々に聞いてくる質問だと思うので、ちょっとそこのところをお聞かせ願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 一昨日は、60周年記念式の中にも私は述べておるわけですが、2025年、

あの自治体は半数を消滅するだろうという強烈なレポートを発表された。私は、いさかたるしるもんじゃないと私は申し上げた。人口が多いから、少ないからの私はバロメーターとはしない。これが町の活力につながるとかつながらんとか、私は絶対考えていません。これ皆さんに叱られてもいいです。私が申し上げているように、近き者よるこびて遠き者来るとおとといも申し上げた。私は、やっぱり老若男女を問わず、人口は減ってもやむを得ない。いや、やむを得ないじゃない、最善を尽くします。この町に生まれて、育って、老いも若きも、揺りかごからついの住みかまで、いや、よかったと言われる私は町をつくりたい。生活基盤の安定を図りたい。人口の多いところへ行って、それだけの合併したところの皆さんがどのような悲哀を感じておられるか、ご承知のとおりです。私は、あくまでも小さくてもきらりと光る、どこにも負けない町をつくると。信念持ってやります。町民に対しても、しっかりと責任持って応えます。やります。そんなこと心配しないでいいです。そのための政策やっているんです。ただ、安易に人口減るの当たり前だと、そんなこと考えていない。しかし、厳しいです。平成28年の自然人口動態、120人の方が亡くなる、21名の方が生まれる。社会動態においては、若干住宅団地いろいろつくって、逆に社会動態が増になっているの2年間最近あるんです。最近ちょっと若干社会動態も減になっております。この自然動態をいかに、101人も差があるんで、これをどう補うか。これからの問題です。やっぱり私は、ただ人間が減る、人口が減る、そういうことじゃない、それこそそれはどこにおいてもある。しかし、その頻度はあります。落差はありますが、この町は私はこうしてお世話になっている以上、これ徹底的にこの町に住んでいる人たちの安全、安心と本当に生活環境の最善を鋭意どこの町にも負けない環境をつくと、自信を持ってやります。皆さんからもぜひご協力いただきたい。そして、人口ではないんです。それ大事なことです。やります。でもそういうものに一喜一憂している時代じゃない。そういう一つの困難に立ち向かって、いかにそれを克復するにはどう考えるか。要は、この町に住んでいる人たちに、いかにこの町のよさを知ってもらうか。全力を尽くすべきだと私は思います。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 若干集落のことをお話しします。この前、5月にご開帳ということになりました。最終的な決算はこの日曜日に出ると思います。現実には、私の20歳代のころは25戸ありました。その中で今20戸です、20戸でご開帳を運営するわけです。そうしてきますと、今ひとり暮らし老人世帯もあります。そうしてくると、だんだん人口減って、今の滝谷の薬師様守っていけるのか。これがひとつ私の懸念の中に、地域の文化というものがあると、行政がただ守るだけではないひとつのがありますんで、ちょっと人口の問題がそこらに懸念、今すぐ答えを町長から聞き出したいというような話だけではなくて、将来的に私たちもやはり一生懸命努力しないと、その人口が減る、例えばうちは滝谷は大家族が4軒あります。うちが8人で、またちょっと離れて9人、また8人というような、そういう構図がありますから、まだ人口も保ってはいるんですけども、あそこの家なくなるな、ここの家なくなるなというような観点からいきますと、半減はするんじゃないかと。こ

これはやっぱり深刻な問題で、地域の文化そのものが守っていけないんじゃないかという懸念から、皆さんの質問に対して私もどう答えていいのか、ちょっと苦慮して今こういう発言をさせてもらっております。これは、またそのうち町長に聞きますから、きょうのところはここでおさめておきたいと思います。

次にまた、農業の基本政策について町の考え方をお聞かせ願いたいんですけども、今まで町長にも一般質問してきました。そんな中で、兼業農家の二、三ヘクタールが一番適正じゃないかというような発言も私は記憶しておりますので、それが私も一番適正だなと。大規模化、国の施策の大規模化とかそういうものじゃなくて、やっぱり人口を保つには小規模で土地に根差した、例えば漁業なら船に海に根差した、そこに根差したものの考え方がないとなかなか人口減もとまらないし、農業関係についても大規模化は出てきますけれども、現実にはなかなかその人が亡くなると後がまた大変という、こういう繰り返しになるんですけども、その小規模農家についての一つの町長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） つい最近新聞紙上を見ておりましたが、今諸橋議員さんがおっしゃるように、大規模農家、直接支払いも今年でなくなると、そういう面からいたしますと、大規模農家は我々ちょっと想像できないような損失をこうむるといようなことは新聞記事に出ておりますが、私はやっぱりそういう意味における農地集積における大規模化という、今国は進めていますが、それはやっぱり法人化して大きくなれば、それはそれなりにクリアできるんでしょうけども、中途半端な農家の人だと大変だと思うんです。そういう意味で言うと、私は小規模農家、出雲崎約70アールぐらいでしょうか、平均耕作面積は。兼業でやっておられるという方も多いわけですが、そういう観点からしますと、私はやはりこの小規模農家は逆にこれからご質問をいただくわけですが、いかに出雲崎米を売り込むかという段階に入ります。そうなったときには、逆に私は小規模農家の出雲崎町の農業の基盤がなしているということは、これプラスに持っていかなきゃだめだと思っているんです。そういう意味で、小規模農家には大変厳しい今状況の中においては、それなりの採算はとれないかもわからんけれども、先祖伝来の土地を守りたいと、うまい米をつくりたいと頑張っていて、私たちもそういう方々からお願いしているわけですが、やっぱり出雲崎の今区画整理して、あるいは農地バンク等で農地集積をして大規模化する。しかし、私は強引に単なる規模を広げるんじゃなくて、小規模農家でもコストを下げて、うまい米をつかって、高い米を売る、そういう意味の町の行政として、諸橋さん滝谷でもやっておりますが、そういう面で町も何とかこの生き残りをかけた、そういう町の中山間地農業の生き方をしっかりと考えていきたいと思っているんです。そういう意味で、今諸橋さんからも、諸橋さんも頑張ってベテランで一生懸命やっていたんですが、そういう農家なりそういう皆さんの声をしっかりと受けとめていただいて、町もやっぱりこれから農業政策が大きく転換します。来年はいよいよ減反廃止という大きな問題、減反廃止し

たらどうなるか、その生産目標数量を示されて、果たしてそれを守るのか守らんのか、私思うんです。大変な時代に入ります。そういう意味の中における我が町の農業の生き残りを総力挙げて対応していかんきゃだめだと思っんです。いかにうまい米をつくって、出雲崎の米は農協からでも何でもいいから直接取引しても高く売れるような米をつくるという、そういうブランドをつくっていく必要があるんじゃないかなと思っんですが、また諸橋さんも一生懸命お取り組みいただいっんですので、いろいろの観点からまたご質問いただきたいと思っんです。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 今の答弁で、少しはわかっっているつもりです。ただ、今の現状だと11カ国のTPP、またヨーロッパのEPA、アメリカとの2国間のFTA、これがどうなるか、それによって国の政策ががらっと変わりますから、現実的には先ほど町長おっしゃいっました、大規模農家が今年度で7,500円ですかね、反当たり、その前まで1万5,000円だったのが半額になって7,500円ですか、そこまで落ちて、この次からはゼロになります。そうした場合、数百万円ずつの穴があいてくるんです。そうすると、雇用の賃金すら出てこないというような状態が生まれてくる大規模農家のせつなさ、また小規模農家のせつなさという両面がありますんで、なかなか難しいところだと私も思っっています。ただ、今回八手地域で基盤整備が進んでいっます。動きやすい、使いやすい、労働のしやすい水田というのをやはりこの町は目指していかなければならないと思っんです。

それで、次の論点に移りますけども、古い事業の暗渠の話なんですけども、六郎女地域で大門までですか、大門、沢田まで暗渠、あとは面工事されたわけなんですけども、その中で地域の中からやはり乙茂、馬草、大寺、あそこら辺がもう暗渠が大分古くなって、いろいろ質問が出てくるんですけども、現実にはそれにはもうちょっと待って、何とか行政にお願いして探してもらおうというような話し方しかできない私なんですけども、そういうものについてどういっふうにお考えか、ちょっとお聞かせ願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 確かに諸橋議員さんがおっしゃるように、古い暗渠、もう10年、15年たちますと機能しないという厳しい状況もございっます。それを団体あるいは圃場整備、県単等々でやられたところが今大きな課題になっていっるんじゃないかなと思っんですが、そういうことにつきましては国庫補助事業もあるんです。総事業費200万以上で受益者2名以上、そして受益面積が5ヘクタール以上で実施できるメニューもあるんです。これは、大方対象になります。だからそういう意味で、こういう事業もありますし、さらに県単では総事業費100万円以上、受益者負担は2名以上、受益面積が3ヘクタール、こういうところでもまた実施できるメニューもあるわけございっますし、採択条件もあるわけですが、少しでもやはり地域が有利になるような事業採択に持っていきたいと思っんです。もしそういう方々おられたら、ぜひ町に相談をしていただいって、採択条件もございっますし、場合によっては町もさっき申し上げたように、耕作条件をよくしなければならい、そういう意味

においては町もまた応援したいというような気持ちもございますので、ぜひお困りの方あると思うんです。そういう方々からぜひひとつこの制度を利用してもらって対応する、町もまた協力したいというふうに考えていますので、また関係者の皆さんによくお伝えいただいて、もしあれでしたら町のほうに十分相談していただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 今話した地域は、負担率が大体30%あったんです。そうすると、我々が中山間地整備事業で5%の負担率だったわけです。本当に苦勞しまして、返済を終えたというような状況が見えていたわけです。現実的には、そういう状況の中ですから、できるだけ私もまた地域に帰ってお話いたしますんで、地域の要望が上がりましたら、本当に負担率の少ないもので運営ができるように、また行政側もご指導願いたいと思いますので、よろしくお願いたします。

次に、地域防災計画ということで、先般厚い文書もらったんですけども、まだ全部読んでいませんし、ただ、今は町民の声ということでいろいろな話の中で聞かされた中の2間についてお聞きいたします。風水害になりますと、今までの中だと吉川の河川の床下浸水、また市野坪の道路の上がりとか、田中の水田など、またこの前の水害では、久田から馬草方面で水害が出ていますけども、きのう梅雨に入ったということで、梅雨の終わりころになるとまた心配の面も出るんですけども、今すぐ言ってももう6月ですから、まさか梅雨前にやっってくださいというわけにはいかないんですけども、地域の声は吉川集落から上がっております。どういうふうにしようか、いろいろ検討はして、10回ぐらい吉川集落へ寄らせてもらいましたが、2級河川の改修が県はなかなか難しいという現段階で、その方向性として排水路というか、2次的なちよっとよけたものの考えなんですけども、公会堂側、神社側ですか、あそこのほうに今の水を、要するに治山工事でやった治山のダムがありますよね。あそこから大量の水が流れるということで、非常に吉川の人たちも懸念しております、大雨が降ると。そうした場合、全部が今家並みのほうへ水が流れます。それを反対側に排水で、2級河川に落とされないかというような物の考え方が出てきましたんで、ひとつそれについて答弁願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） ただいま諸橋議員さんからご指摘をいただきました吉川あるいは市野坪、あるいは田中、大寺もあったわけですが、大寺はおおむねですね、できる限りの手を尽くしながら、おおむね、概成でしょうか、工事も終わるということですが、吉川の問題、今具体的なご提案をいただいているんですが、この吉川につきましても本当に諸橋さんがおっしゃるように、地元の皆さんからも強いご要望もございまして、町もこの基盤整備に合わせての2級河川の改修等々で全力を挙げて、おおむねうまくいくなと思ったやさきに地権者のこだわりがあって、もうその予定、計画どおりの断面がとれないという厳しい状況、私もいろいろ対応してみたんですが、なかなか甘んとして受け入れていただけないというような状況で、それならばというので名古屋さん初めそういう

住宅の堤防を高くして、できるだけ水が上がらないように、また横断排水路も町が進め、金をかけてやって、そして要望にもできるだけ応えたいということで誠心誠意尽くしているわけですが、新たなまたご要望も出ているわけでございますが、やっぱり基本的に私はもう少し粘り強くこの関係する方のご理解いただいて、断面がしっかりととれる、そのことがあの改修の大きな成果が上がるもとなんです。こそくな手段よりも、そのほうが正攻法なんです。そういう意味で頑張ってもらいたいと思いますし、ほかでも市野坪も対応して、それなりのまた改善をされていますし、田中も今回の基盤整備の段階で何とか断面、河川の底が上がりますで大変なんです。基盤整備の中で何とかできないかというようなことで、これもまた模索をしながら、できるだけ地元の方のご要望に応えたいということで進めてまいっておるんですが、万事万端全てのこと今なかなか延長線、面積も延長水路も長いわけですので、できるだけお困りのところは全力を尽くしながら対応してまいりたいと思いますが、その辺もご理解いただいて、町はこれ当然、そんな我慢してくれというのではなくて、何とか対応したいと頑張っていきますんで、今諸橋さんのご指摘いただきました箇所につきましても、また担当等でよくまた精査しながら対応してまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） しっかり精査してもらいたいと思います。現実に今すぐ今年、来年というような話ではなくて、治水についてはこのやっぱり行政が担う一つの方向だと思っておりますので、よろしくをお願いします。他の地域についても同等であります。

次に、原発の話なんですけども、これは前にも私町長に質問させてもらったんですけども、私個人は孫もいますんで、原発は反対というのは町長に明言させてもらったんですけども、まだ町長変わりませんか。その辺のところお聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 原発問題につきましては、ご質問いただいて、私なりに率直に考えを申し述べさせていただきました。特に近々におきましては、25年9月の宮下前議員さんからのご質問にもお答えをしました。その当時は、私はもう安易に稼働するということは絶対だめだと。やっぱり確実に東日本大震災のあの過酷な災害に照らし合わせた中における、なぜそういう問題が起きたのか、しっかりと原因究明しながら、原子力規制委員会なり、それぞれの皆さんが対応されるとするならば、私は国、県が認めるとするならば稼働も私は是とするということを申し上げました。最近、ちょっと情勢変わってきました。今日の新聞報道も出ておりますが、米山知事は安全協定の見直しをしたいという提案です。この安全協定の見直しというのは、私はやっぱり相当ハードルが高いと思うんです。今までの安全協定については、県あるいは柏崎、刈羽、3自治体が合意なくとも再開はできると、稼働できるというようですが、今度それ見直したいという米山知事の意向が出されているようでございますし、また最近原子力規制委員会の田中委員長はきょうの報道出ておりますが、間もなく退任をされるわけですが、その前にどうしても原発を視察したいと、その中におけ

るいろいろやりたいというようなことも言うておられるようでございますし、発言もされているわけでございます。私は、今の段階におきましては、この再稼働についてはしっかりと県あるいは柏崎、刈羽、あるいはその原子力規制委員会がどういう判断を下すのか、それを注意深く見守りながらその判断に従っていくしかないかなというふうに思っていますので、かつての答弁をいたしました私の考え方は、ちょっと若干後退したと思われるかも知れませんが、やっぱり情勢が変わってきておりますが、私はやっぱりそういう意味で慎重を期さなければならんと思っています。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 5月に日報に柏崎市長の質問が生まれて、また6月の14日にこの柏崎市長の質問出ているんですけども、現実には原発の6、7号機の再稼働ということに向けて、1から5号機のいずれかの廃炉を目指したいというので、廃炉事業に対してひとつ方向を見出したいというような考え方を柏崎市長申しております。

それと、もう一点、いろいろ東電の重要免震棟の不備とか、問題はあります。ただ、その中で私個人としては、廃炉の事業も正しいかなという、積極的稼働は絶対に求めませんけれども、耐用年数40年基準というのがありまして、基準を超えると60という数字になるわけなんですけども、その面について、私は40年でもう廃止してもいいんじゃないか、今現在この原発がこの地域で動かなくてもほとんど苦慮していないと。ただ、福島のことを考えると、動かさざるを得ない一つの要因もあるのかなというような気がしていますんですけども、この柏崎市長の発言について、町長一言。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 諸橋さんのご質問でございますが、市長もやはりそれなりに本当に多角的にもあらゆる角度から、市民の声なり、あるいは県、国の状況を判断されて、慎重に熟慮に熟慮を重ねた上における発言と私は考えていますので、私は1自治体の市長さんの発言に対するコメントは差し控えさせていただきます。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 確かに首長の発言に対して、他の首長が言葉を発言するというのは非常に難しいと思います。ここの発言ならわかるんですけども、非常に難しいだろうと思っはいるんですけども、いろいろ町長も変わってきたと、少しずつ今までの現状とは変わってきているというふうな今発言もございましたので、今後また変わることがあるようひとつご期待申し上げて、この原発の問題締めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

あとは、次に雇用の問題なんですけれども、先般町長が企業誘致はしないで、北インターの地域に工場立地があるという発言されています。そうした場合、どういうふうに我々は考えて、町民に説明していけばいいのか、今後あそこへ工場が誘致されるからそちらのほうへ勤めなさいというふうに説明をしていくのか、こういう問題については町長はどういうふうにお考えなのか、ちょっとお聞かせ願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 私も皆さんに申し上げたように、ご指摘をいただいて町に企業誘致はできないかと、確かにそれはもう喫緊の課題であり、最大の我々の政策課題だと思うのですが、現実的にはなかなか厳しいという中において、僥倖にも約15分で工業団地に通勤できる可能性のところに企業を誘致するというところでございますので、これはやはりこれから出雲崎町に住む若い皆さん、新たに就職したいという方々がどういう選択をされるかわかりませんが、やはり今は地方の中小企業だからといって、雇用関係とかそういう条件なんか大きく変わっていません。逆に小さいところであっても技術力のある、その企業特徴のあるものをつくり出す企業というのは、これからさらに伸びるわけですから、そういうところに根差した企業誘致がなされるものと私は期待をしています。そういう意味で、これから若い人たちからもできましたらひとつ近くのそういうところにお勤めいただくような、町としても皆様方に大きな意味で、その企業の内容等についてもまたお知らせをしながら、ぜひひとつこの町に住んで、若い人たちから勤めていただきたいという努力はしてまいりたいと思います。かつての職業安定所、ハローワーク等々、私は常に申し上げている。出雲崎町がもう小さな自治体ですが、やはり柏崎になるハローワークだけじゃなくて、町もその2次的なハローワーク的な機能を持って、積極的に若い人たちに呼びかけるということが必要だということを申し上げているんですが、今回この機会を得まして、ひとつ情報をしっかりと把握しながら、ぜひひとつまた若い人たちからお勤めいただくように頑張っていきたいと思いますので、またよろしく願います。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） 今ハローワークの話が出たんですけども、現実的にはこの例えば出雲崎の企業が求人募集する場合、柏崎に出さなければ、今はネットの時代ですから、どこでも見えるとは言えますけれども、その地域、地域によってその優先的に物を考えますから、長岡地域にじゃどうだという話になったときにどういうふうな状態になるのか、やはり今後考えていかなければならない、今までの各行政の縦割りといいますか、そういう問題が何か弊害になるんじゃないかというような物の考え方がちょっと懸念しておりますので、そこのところもしっかり行政のほうで把握しながら進めていってもらいたいと思います。

次に、最後の質問に移ります。町は、今それこそ船橋、田中、それと中山、尼瀬で道路拡幅を行っております。現実の話としては、こういう例えば決め方の基準というものはどういうふうになっているのか、これは課長に聞けばいいとは思いますが、ちょっとお聞かせ願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 確かに今町が町道の第2次拡幅というようなことで進めておるわけでございますが、もうその採択条件につきましては、やはりある程度通学バスなり、いろいろな面が行き来する中におけるやっぱり交通事故の起きないような安全を確保するために、どうしても必要と思われ

るところを最優先にやらせてもらっているわけでございますし、例えばちょっとご要望の中にもございましたが、松本、神条側も狭いからというお話でございますが、これにつきましても集落の強い要望ございまして、大きなカーブを緩いカーブに変える2回も工事をしておるといようなことで、安全を確保するというものを最優先しながら、しかしやはり拡幅も相当の経費がかかるわけでございます、できるだけ財源も交付金なり、いろいろな面のを確保しながら、できるだけまたご要望に応えられるように逐次進めてまいる。その採択基準は、今申し上げますように、集落の置かれている環境なり、あるいは交通事故の多発しやすいような場所、また交通通学バスの運行がスムーズにいくようにというような箇所を重点的に取り上げながら、公平に進めていくということでございますので、緊急度の高いところもございましたら、速やかに対応すべくまた頑張っていきたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） ただいま松本、神条という話が出ました。このバス通学ということになると、馬草、大寺ですとか、いろいろな方向に支援をさせていかなければならないと思えます。今やって、そう町の予算も潤沢にあるわけじゃないですから、しっかりした基準で進めていってもらいたいと思えます。地域の声に全て応えるというのもなかなか難しいというのもわかりますから、ひとつ順次進めていってもらいたいと思えます。

それに伴いまして、街灯なんですけども、きのうの夜しっかりと見てきました。松本側から上って、まず神条の上り口に1灯ありますし、それにカーブ上ってカーブのところにもう一灯あります。それなんですけれども、松本側非常に暗いです。昔町長さんもご存じとは思えます。滝谷でちょっとした事件がありまして、いろいろな諸問題で女性が山の中へ連れ込まれたというような物の考え方をしますと、やはり中学生が通学する通学路でもありますから、ひとつそこらの考慮はしっかり考えてもらえないかなと思えますので、ちょっと答弁お願いします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） やはり申し上げておりますように、諸橋議員さんおっしゃるように、犯罪のない明るい町ということを考えますときには、明るく街灯等が大きな一つの役割を持っていると思うんです。そういう意味で、町もできるだけ皆様方ご要望に応えながら、特にその地域の方が小中学校、高校生の通学関係の道路あるいは歩道等につきましても、しっかりと調査をしながら町も設置しておるといような状況もございまして、また東北電力からも寄贈いただいた街灯等もございまして、順次やはりそういう今諸橋さんが指摘された松本から神条へ越える峠を街灯少ないといようなお話もいただいております。そういうものも確かに範疇に入れてやらなきゃならないと思えますが、まずは通学道路を頻繁に生徒たちが、あるいは部外活動でよく帰る、そういうところにおける暗いところ等々については、立石等のご指摘いただきました。直ちに対応すると、そういうものを最優先をしながら、できるだけ今ご要望のございまして、町としても

対応していきたいというふうに思っていますので、また現実に通ってみられてのそういう箇所をご確認いただきましたら、また担当のほうにこういうところにどうだというお話をちょっといただいて、町もまたそれを直ちに対応できるかどうか、しっかりとまたやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） いろいろ答弁いただいてありがとうございます。地域からの要望があれば、また行政としても執行をよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後は、ちょっと私もわからないんですけども、町道の切り土、これ特に横横断の切り土のところに雑木なり、松なり、例えば滝谷から神条に抜ける道があります。あそこを三、四年前に一度やってみてもらいましたかね。こういうものは、いろいろなところにも見受けられるんですけども、こういう基準というものといひますか、やり方というのは、巡視しながらやっているのか、見ながらやっているのかどうか、ちょっとお聞かせ願ひたいと思ひます。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） ご指摘のように、特にまた区長会議あるいはいろいろな会議の中で皆さんに町としてのお考えを示し、協力をいただいているところでございますが、さらに車や歩行者の通行を妨げている樹木などの撤去については、基本的にはやはり所有者が責任を持ってやってもらおうということをお原則にしております。そういう意味で、危険箇所については担当課でもパトロールしながら、集落から見通しの悪い場所の連絡を受けますと、所有者を確認しながら、町の土地であれば町が伐採しますし、個人のものであれば所有者に伐採をお願ひするというようなことで対応しております。確かに個人の土地であっても危険度が高いという場合には、応急的には町が出動いたしまして、出ている枝を伐採するなど行っているわけでございますが、原則は所有者から責任を持ってやってもらおうということをお原則にいたしておりますので、そのようにひとつまた町民の皆さんからもご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（仙海直樹） 9番、諸橋議員。

○9番（諸橋和史） この詳しい話は、また課長にしっかり話をお聞きして、ひとつ我々もこのほうがいいんでないかというような対応の仕方しますんで、ありがとうございます。

以上のように質問終わります。

○議長（仙海直樹） この際、しばらく休憩いたします。

（午前10時38分）

○議長（仙海直樹） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時51分）

◇ 小 黒 博 泰 議 員

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、1番、小黒博泰議員。

○1番（小黒博泰） 初めての質問で緊張してしまっていて、うまくしゃべれるかわかりませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

まず最初に、観光客誘致についてなんですけども、今当町は海、山と自然豊かで歴史、文化、食と当町にはさまざまな観光要素がある中で、今までのPRというかでいきますと、国内、近県の観光客をメインに観光PRをしてきたと思われまふ。2020年にはオリンピックが開催されることにより、海外からの旅行者が増え、経済効果も期待されることから、今各地ではインバウンド観光に力を入れているところが増加しておりますけれども、当町はインバウンド観光にどのような考えを持っているか、伺いたひと思ひます。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） まず、小黒議員さんの第1問目のご質問にお答えいたすわけでございますが、先ほど来からちょっと人口減少問題も取り上げているわけでございますが、それらによります観光産業も若干縮小傾向にあるということは否めない事実でございます。新潟県では、湯沢町あるいは妙高市、海外からスキー客が大勢訪れておられるというような報道もされておるわけでございますが、当町も他の市町村で万策模索中の状況ですが、長岡あるいは柏崎など、広域的な枠組みの中で広域体制を整備しながら準備を進めていく必要があるというふうに考えておるわけでございます。

看板等につきましても、この北スマートインターチェンジ開通に伴いまして、いろいろ導入線を考えてながら行っておるわけでございますが、看板の整備ということにつきましても、最近先ほど来から話題になっておりますところのスマートフォン等、IT関係で簡単に転換できるという整備ができるので、ある程度看板を立てて整備したいというような自治体も出てきておるようでございます。昨年度は、長岡技術科学大学院の留学生を対象といたしましたモニターツアー等も開催いたしまして、観光ボランティアガイドの方からご案内をいただきまして、案内の内容は通訳の方を通して伝えた。昼食等もいろいろ国柄がございますので、メニュー等も十分配慮して提供したというところでございます。

また、ご指摘ございますように、今年度当初予算で計上させていただいたわけでございますが、旅する新虎マーケット、これを2020年開催の東京オリンピック、パラリンピックに向けて日本全国の魅力を新虎通りから世界へ発信したいということで今開催中でございますが、これは全国の市長連合会が開催をしておるわけでございます。私たちも参加したい、するということで予算計上して、途中企画等についていろいろ検討してまいりますと、若干疑義も出てまいりまひていかなものかなというので関係市町村、弥彦あるいは粟島浦と検討してまいりましたが、企画内容についても効果が上がるような提案も取り入れていただいたということで、予定どおり参加するというようなこ

とで、積極的にまた出雲崎町の産物をそういう通りを通しながら売り込みたいというふうを考えておるわけでございますので、よろしくまたご理解をいただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） ありがとうございます。

今現在の外国人旅行者、昔で言う中国の爆買いじゃありませんけれども、今方向というか、旅行する人も変わりがちで、日本のそういう僻地と言ったらあれですけど、田舎だとか文化、あとそういうふうな極端で言うマイナーなところに観光客が集まる傾向が多々あると思うんです。その中で、当町は本当に歴史、良寛さん初め寺院やお寺、歴史、文化も多々あると思う中で、ぜひ他町村に負けないぐらいの早さでそういう方向性を導いていただきたいと思います。

②になりますけれども、近隣町村、私が調べた感じだと、高柳とか十日町、松之山地区で今本当小規模なインバウンド、5人から10人ぐらいのイスラエルの方なんですけれども、そういう方を受け入れて、年20回ぐらいですか、そうすると延べ350から400人ぐらいの方を受け入れるというかインバウンドとして入れて、そういう高柳のカヤぶき屋根のところですか、そういうところか、十日町のところとかに一応案内しているらしいんですけども、その中でぜひ海がある出雲崎もそのコースに入りたいというお話がちょっとありまして、私もそれを聞いたときにぜひ機会があればそういうところに賛同して、最初から大人数を受け入れるのはちょっと難しいので、少人数からそういうふうな観光客を取り入れて、町の観光をもっと全国に広めていければこの町の発展にもなりますし、いいPRになるんじゃないかと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。その中でもって、まち・ひと・しごと総合戦略の中にも重点目標の4で基本的な方向ということで書いてありますので、その辺観光に関して重点目標は上げておりますので、その目標は達成できるように町としても進めていっていただきたいと思います。

続きまして、2番目の汐風米について質問させていただきたいと思います。今まで私の記憶の中では、議会で過去2回、24年の定例会で田中元議員、27年の全協で中川議員が汐風米について質問されていると思います。今年で3回目になると思うんですけれども、昨年までは沢田の圃場でつくっていました。今年から私聞いたら、神条の圃場でつくっているということで、その汐風米なんですけれども、ホームページでは「堆肥をすきこんだ田んぼで収穫された稲を日本海の汐風で乾燥させた、自然の恵みあふれるこだわりの特産米です」。また、観光パンフでは「稲作のスペシャリストが、愛情を込めて作った有機栽培天日干しのコシヒカリ。日本海の潮風に昔ながらのはざ掛けでさらして乾かしたこだわりのお米は絶品です」と表示しながらも、実際は潮風にはほとんど当たっていない状態だと思います。町民の中では、本当きつい言い方なんですけれども、これは偽装米ではないかという意見も多々聞いております。前回というか、過去の町長の答弁でありますと、出雲崎であればどこでつくっても潮風が当たるんで汐風米だという答弁があったと思うんですけれども、今の現状をどう考え、今後どうするのか、伺いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今小黒議員さんのご質問のように、過去にもご質問いただいて、私なりに答弁をさせていただいたわけですが、商標登録等に当たりまして、汐風米とかそういうものはないわけですが、今ホームページなりいろいろなどにおいては潮風にさらし、そして天日干しでうまい米というようなことであるんですが、その中で看板に偽りと言われるならば、潮風がどうなのかということですが、私は申し上げている。出雲崎は、日本海に面して、そして吹き渡る風は必ず潮風を乗せながらどこにも風が来ているということの中におけるひとつご理解、海の出雲崎、この出雲崎のその地内で作った汐風米ということでご理解。あとは天日干し、かつては海岸の堤防沿いにやったんですが、私はあれを見まして何回も言ったんです。もしあそこに夕風橋が火を燃やしたり、若干壊したり、もしあのはぎに火をかけられたら大変なことになる、これはやめようというのであの場所を撤退しました。しかも、私もかつては農家ですから、その天日干しはどんなものか、干してある稲穂をつまんでかんでみるんです。全く過乾燥で私担当に言ったんです。あんた方、あんな米を乾燥して米にするんかと、もう過乾燥で食味が完全にだめだということを私強く指摘した。それで、海岸通りはやめて田んぼに持ってきました。

小黒さんのご指摘もありますし、町民のそれぞれの皆さんからもいろいろのご指摘をいただいている以上は、私は天日乾燥、これはもう小黒さんもやっておられますが、天日乾燥というのはよほどの技術を見きわめしないと食味が落ちるんです。全くだめなんです。私は、それを指摘している。天日乾燥、天日乾燥といったって、要は究極は消費者に好まれ、うまい米だという米をつくらなきゃだめだ。その天日乾燥というのは物すごく、私も農家ですが、その米を取り入れるについてはケット等ありましたが、私はつまんで、ああ、いいな、ちょっといいな。ただ、天日干せばいいんだと、それじゃだめだと。食味は逆に落ちるといので、去年まで率直に申し上げまして天日乾燥をしたんですが、ことしは私はやめるべきだと。もうそれは、簡単にそうやれと言われても、要は消費者にうまい米を出す、そのためにはやっぱり調整にかけてしっかりと乾燥度合いを確保してうまい米をつくってくれと、もう天日乾燥はやめようと、ことしはそうなんです。私は率直に申し上げまして、これは32年にこの商標登録の期限は10年終わります。私は、この汐風米の商標登録はやめようと思います。逆にもう少し本当に出雲崎の、先ほどおっしゃったスペシャリストがもう精魂込めてつくったうまい米だというものを売り込んで、汐風米が本当にうまい米、出雲崎の米ということで私は売り出したいと思っているんです。汐風米のネーム登録は継承しないというふうには私考えている。また、議員の皆さんとよく相談させてもらいたいと思いますが、だから要するにこれからは若干なんです、やっぱり先ほどの諸橋さんのあれですが、いかにうまい米つくるかという技術が要るんです。単にそういう作爲的なただあれでやったんじゃ困るなと思っていますので、十分小黒さんの今ご指摘もごございますので、結果的には潮風についてはひとつ広義にご理解をいただいて、出雲崎、海の風が襲ってくる潮風でそれぞれが恵みを受けているということでご理解いただいて、

あとの所作についてはしっかりとうまい米とどこにも負けない米づくりというものに誠心誠意対応しながらやっていきたいなと思っていますので、またいろいろご意見も伺いながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） ありがとうございます。

今町長答弁のとおり、うまい米、それは当然だと思います。ただ、汐風米という最初の22年の4月に商標登録して、その当時の課長さんからも商標登録にも苦労したと。ブランド米をつくって出雲崎をPRしたいということでこの汐風米を始めたと思うんですけども、さっき汐風米をネーミングをなくすとか、それは別にいいと思います、なくすのであればなくすで。ただ、今現状の汐風米というその栽培についてなんですけども、これはこの前、先月募集もう終わりましたけど、出雲崎まるごとオーナー募集、その中でここでも汐風米、稲刈り、はざ掛け体験あります。それで、ここにもしっかりと汐風米とはということで、「日本海をのぞむ棚田で収穫された稲をはざ掛け、海から吹き寄せる風に当てて天日干しさせた自然の恵みあふれるこだわりのお米です」と、ここまでうたっていてその潮風にも当てないというのはちょっとおかしいんじゃないかと思うんですけども、どうでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今課長から、このパンフレット等もまた私見させてもらっているんですが、商標登録はそういうこと全くうたっていないんですが、要するにホームページには今のまるごとオーナー、そういう文書が載っているということはいささかちょっと私もうかがなもんかなと。今はいわけだ。今のは、はざ掛けの米を食べていただいている。まるごとオーナーは、看板に偽りなくしっかりとのはざ掛けを食べているんです。でもこれからの問題、しっかりとやっぱりそういう点を皆さんからご理解いただくということで、そういう表現、文書もやっぱり私は改めなきゃだめだと思うんです。そして、いや、しかし汐風米というのは今までの米よりも数段上だぞ、うまいぞという米を提供することに私はやっぱり目的があるんじゃないかなと思っていますので、ご指摘につきましてはまたひとつ真摯に反省をしながら、文書を削除するところは削除して対応していきたいと思いますので、またご理解いただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） その文書を削除するのは、募集終わっているんで、オーナーの方は1組2万5,000円ではざ掛けで、本当に私からすると勝見の圃場でつくった本当の汐風米だと思います。たださっき言ったように、ことしは神条でつくっている圃場、その圃場について私も場所がどこであるのかちょっとあれだったんで、実際に委託契約昨年までされている方に聞いたら、さっき答弁のとおり、ことしは汐風米圃場ですけど、はざ掛けも何もしない、普通の乾燥調整で汐風米として売るとい話を聞きました。そうした中ですと、汐風米、正直価格で販売すると、天領で今売ってい

るのが出雲崎産の汐風米、5キロで3,150円、さっき言われように普通の神条の圃場であつて、乾燥調整した米が、多分稲研さんとかがあつくと5キロが3,020円、馬草の合鴨米が3,380円、それに当てはまらないと出雲崎産コシヒカリ一般米ですよ。5キロでもって2,450円です。かなりの格差があると思うんです。だからことし神条の圃場であつて米をさっき普通の乾燥調整でもって出した場合に、やっぱりそれを汐風米として売なのか、一般米として売なのかによって、かなりのお客、正直これは町内というか、町うちで今出ている汐風米について出ている問題なんでこれはいいと思いますけど、これがもしお米を22年から買っているお客さんが汐風米ってのはざ掛けしていないんですかという質疑じゃないですけど、出た場合に、町としてはどういう対応をするのか、お聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今市場に出回っているのは、確実にはざ掛け米ですから、この秋からとれる米についてはそういう文言を削除して、価格も60キロ3万6,000円の米なんか、20俵しかないんだらう。これは、贈答よりそういうもんだつたら60キロ3万6,000円の米なんか食べませんよ、今。もうそういう時代じゃないです。いかに安い米をいかに安く、いや、これはうまいぞと、これは安いがうまい、大量に安くうまい米をある程度の価格で消費者から好んでもらう、そういう方向転換しないと、もう単なるネームなりそういうもんだけにこだわつたら、これ大変なことになりますよ。私は、やっぱりはざ掛け米なんかやめて、しっかりと乾燥調整をして、もう品質を保つてうまい米を安く売るといふ方向でこれからも進めてまいるべきだと思つています。今の売っているやつははざ掛け米ですから、これから売り出すのははざ掛け米じゃないです。ちょっとそういう点をあれしめて、価格の面もちょっと検討してもらいたいと思つています。ひとつそういう点で、今まで私は汐風米ということでぜひひとつ出雲崎産米のコシヒカリ、うまい米をと思つたんですが、時代のやっぱり要請、変わり方によって方針を変えていかなきゃならんと私は思つています。そういうことで、皆さんといろいろご相談申し上げながら、より出雲崎のコシヒカリを大勢の皆さんから食してもらうような環境づくりをしていきたいというふうには思つています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 先ほどから汐風米もはざ掛けをやめるという話でもつていますがけれども、であれば私極端な話、汐風米委託契約で昨年、27年度予算で41万ちょっと委託出ているわけです。であれば、普通に多分この町の農家さんは皆さん7割減の特別栽培米のコシヒカリをつくつていると思つています。であれば、その委託契約40万を払わなくて、普通の出雲崎米のコシヒカリを買つて、袋汐風米等でもって売り出しても何の変わりはないと思つてはいますが、その辺どうでしょうか。

○議長（仙海直樹） 少々お待ちください。

この際、しばらく休憩いたします。

（午前11時14分）

○議長（仙海直樹） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時14分）

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） もう少し具体的にしっかりとわかっているの課長ですので、今の黒さんのその質問に課長のほうから答弁しますので、よろしくをお願いします。

○議長（仙海直樹） 産業観光課長。

○産業観光課長（大矢正人） では、私のほうですみません。お話しさせていただきます。

黒さんがお話しされている27年度の委託の点でしょうか、それについてははざ掛けでいただいた委託という内容です。今年度につきましては、はざ掛けというよりも町長の答弁のとおり、お米の製品の精度を上げてよりおいしいお米をつくっていただくために、昨年度までですと例えば天候によってはざ掛けの非常に期間が長くなったり、それによって米の品質が落ちたりしているというようなことがあってはざ掛けはやめていこうというふうにしております。それで、今年度非常に要は売れ行きがよくて、15表ではちょっと足りないということで、今年度20俵のお米をつくっていただくということで神条のほうに面積の広い田んぼに移してお願いをしております。町長の答弁のとおり、はざ掛けをやめて精度の高いお米をつくっていただくということで、今年度につきましては50万円で2反6畝の田んぼでつくっていただくというふうに委託をお願いをしているという実況です。

○議長（仙海直樹） 1番、黒議員。

○1番（黒博泰） 今課長からあったとおり、それは私も十分わかります。それでもってさっき戻るんですけども、だからそのお米をはざ掛けもしないし、夜風にも当てないとなると、本来の汐風米ではないんじゃないですかという話です。それをこしは50万予算とって、普通に乾燥調整して、汐風米として多分売らるでしょう。そうしたときに、だから普通の出雲崎の農家さんがつくっている一般コシヒカリと変わらないんじゃないですかという話です。それであれば、だから町でわざわざ汐風米という委託料を50万予算とって、20俵云々でもってどれぐらいできるかわかりませんが、その委託料を払って町がわざわざ潮風米としてつくらなくても、普通の農家さんがつくったお米を町が買って袋を汐風米にしたって、そうすれば二千幾らで入るわけです。町長さっき言ったように、高い米なんて食べようと思わない。町内の一般コシヒカリでもって5キロで2,450円です。であれば、安くておいしい米を求めらるであれば、皆さん絶対こっちを買うと思うんです。であれば、わざわざその委託料を50万云々払わなくてもですし、今までそのはざ掛けして品質云々といいますが、じゃ何のために委託料を払ってのはざ掛けをしているか、その天候にもよりますけれども、それなりにはやっぱり今は昔と違いますし、ちゃんと米の水分計もありますし、それはやっ

ぱり委託を受けた方が責任を持ってこの時期になれば水分がこのぐらいになるんで、はぎをおろしてすぐ脱穀しようだとか、そうしてつくるのが特別のブランド化した汐風米だと思うんです。

であれば、だから町長言うように、この町どこでつくっても潮風が乗っているから汐風米だという、その観念が私が理解できないんですけども、私も農家していて、今は海岸のほう田んぼの減反でもってあれですけど、以前は久田の広野と久田の部落とあと上中条のほうに田んぼありまして、海岸の潮風を含んだ土壌とか風に当たったお米は、やっぱり甘みがあっておいしいんです。それは、もう私が自分でつくって食べているし、ほかにもやっておいしいというのがあるので、本当からすれば今勝見のまるごとオーナーでやっている田んぼ、私もちょっとあれですけども、4反ちょっとあるんでしょうか、1反7畝、それでもってあれですけども、本当にこういう、いや、これ見たらこういうとこで田んぼしようなんて、オーナーさんじゃないですけど、いいところでえぐみが見える圃場で体験して、そのお米が食べられればいいなとやっぱり募集して、だからすぐ募集も終わりましたよね。だから本当であれば、汐風米を町長ネーミングをなくすと言いましたけども、せっかく苦労して商品登録したネーミングなんですから、やっぱり残して海岸、勝見もそうですし、尼瀬もそうですし、久田にもあります。久田場の下にもあそこも見れば、街並が見えていい圃場なんです。そういうとこで、本当につくれば本当のおいしい汐風米が私はできると思うんで、ぜひ今後やめると言いましたけども、せっかく始めた事業なんでそんな簡単にやめないでほしいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 先走った発言をしていますが、今小黑さんがおっしゃるように、仕切り直しでやっぱりこの汐風米を戻して、いかに堆肥を入れてしっかりと栽培過程を経て、うまい米を売り込むかということに対して仕切り直しでやりたいと思うんです、ご意見を聞いて。そして、産地指定をして、単に個人じゃなくて産地指定をして、ある程度大量に安いうまい米を、これは出雲崎のコシヒカリという一つの展示的な田んぼになるような、単に1反や2反、1町歩ぐらい、1町歩、2町部の用地をしっかりと指定して、そして町もやっぱりこれからはそれを中心に和を広げて、出雲崎町のコシヒカリというブランドをつくりたいと思うんです。私は、あえてブランド米、汐風米、汐風のネームバリュー、ネームを残すというならば残して、そこにおける内容については、ちょっと文言、表現を変えて、本当にうまくて安い米をいかにつくる、それを産地化するためのひとつスタートラインにこれから立ちたいと思うんです。個人に委託料を任してやると、もうそれは終わりです。私は、もう少し農家の方から大勢参加してもらって、本当に精魂込めてやった米でこうですよと、うまいですよと言えば高くても買えるわけです。普通の価格よりも高くても買えるんです。そういう米を大量に生産するようにしないと、これからは単に個人の限られたやつではなくて、やっぱり大勢の皆さんから消費者から好んでもらうような形をとっていかないとこの制度続きません。お金ばかりかけて、だからこの辺はもっと現実に即した中における本当の効果というのを上げていかんきゃならん。ということをお黒さんから貴重なまたご提言をいただいていますので、仕切

り直しでしっかりと来年はもう少し感覚を変えて、本当に出雲崎の米、コシヒカリというものを売り込むように頑張っていきたいと思いますので、またいろいろ時間もございますので、ご提言いただいて、それを受けとめ、また町も一つの新しい企画を出しながらやっていきたいと思いますので、またよろしくをお願いします。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 私が思うに、毎回この汐風米が出ると何かあやふやに話が終わって、何かあれなんですけども、本当にせつかくつくったあれなんで、実際業者のほうでも汐風米はもうネームバリューをなくして売っていくのであれば、私は早くなくしていただいて、そのネームを一般の農家の方が汐風米として使って売れば今までのあれもありますんで、正直27年度産ですか、汐風米、多分天領にはもう販売されていません、ないんで。28年度産ですか、ことしのやつは。それは、15俵、量が少ないというのがありますけれども、それだけやっぱり消費者の方はブランド米という意識でもって高くても買ってくれていると思うんです。であれば、今までどおりそんないっぱいつくらなくとも、20俵なんかでもってやっぱり特別出雲崎の全体のおいしいお米の中でも汐風米という、特においしいお米をブランド化で残すのがこの先の農業じゃないですけども、私はそういう考えを持っています。今の町長答弁でいくと、②で質問あれですけど、今後の圃場、私は尼瀬とか勝見、久田とかに汐風米を圃場つくれば、別にはぎ掛けしなくても、もう田植えのときから潮風に当たっているんで、さっき言ったようにはぎ掛けしなくても乾燥調整すれば汐風米として販売できると思うんです、ちゃんとしたいいい品質で。ただ塩害云々でもってその収量というのは少なくなるかもしれませんが、それがやっぱり特別栽培米ということで、ブランドのお米、ネーミングもちゃんと汐風米というブランドであれだと思うんで、ほか県内とか、やっぱり他県でも石川県の輪島の千枚棚、あと佐渡も周り海に囲まれているんで、あそこにも7カ所ぐらい棚田があって、そういうお米は皆さん特別においしいと思ってやっぱり高くてもオーナー制申し込んで、そこのお米が食べたというので集まるオーナーの方が多々いるのです。やっぱりその中で出雲崎のことしまるごとオーナーというのを始めたと思うんで、これがまた5年計画とかなんかいつても、それ5年じゃなくて10年、20年と続けてどんどん出雲崎に観光としても来てもらえれば発展にもつながると思いますし、そのおいしいお米が常に食べられるという、もっといい町の食をこれから町長、食、出雲崎の米を売り出そうという中で、特別なお米としてやっぱり売れるメイン商品じゃないですけど、なると思うんで、その辺よく今後はお考えになって進めていただきたいと思います。

これで私質問終わります。

○議長（仙海直樹） これで一般質問を終わります。

◎散会の宣告

○議長（仙海直樹） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会します。

(午前11時26分)